

大学等名	鹿児島女子短期大学
プログラム名	ICTIによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称
児童教育学科、生活科学科食物栄養学専攻

③ 修了要件
 ①1年前期または1年後期に、一般教養科目「AI社会論」または「データサイエンス概論」のいずれかを履修すること(選択必修2単位)。
 ②「情報機器演習」(1年前期)履修すること(必修2単位)。
 上記の①と②を満たすことにより、卒業時に「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム」修了証が授与される。
 ③一般教養科目「データサイエンス演習2単位」または「AIプログラミング2単位」のいずれかを履修することで、本学独自による「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム・プラス」修了証が授与される。

必要最低科目数・単位数 2 科目 4 単位 履修必須の有無 令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					
情報機器演習	2	○	○						

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI社会論	2		○	○					
情報機器演習	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2		○	○							
情報機器演習	2	○	○	○	○						
データサイエンス演習	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AIプログラミング	4-1統計および数理基礎		
AIプログラミング	4-2アルゴリズム基礎		
AIプログラミング	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット: AI社会論(7回目)、データサイエンス概論(4回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化: AI社会論(7.8回目)、データサイエンス概論(4回目)、情報機器演習(2回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会: AI社会論(9回目)、データサイエンス概論(2.4回目)、情報機器演習(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス: AI社会論(5.6,13回目)、データサイエンス概論(3回目) ・人間の知的活動とAIの関係性: AI社会論(14回目)、データサイエンス概論(3回目) ・データを起点としたものの方、人間の知的活動を起点としたものの方: AI社会論(9,10,11回目)、データサイエンス概論(3.4回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど): AI社会論(12,13,14回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など): AI社会論(12,13,14回目)、データサイエンス概論(3回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど: データサイエンス概論(7回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化: データサイエンス概論(7.8,9回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など): データサイエンス概論(10回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション): AI社会論(10,11回目)、データサイエンス概論(2,15回目) ・データのオープン化(オープンデータ): データサイエンス概論(15回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など): AI社会論(3.4回目)、データサイエンス概論(2.3回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど: データサイエンス概論(2.3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など: データサイエンス概論(2.3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション、データ同化など: AI社会論(7.8,9回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、拳動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など: AI社会論(4回目)、データサイエンス概論(7.8,9回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など: AI社会論(5.6,7回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ: AI社会論(5.6,10回目)、認識技術、ルールベース、自動化技術: AI社会論(5.6回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案): AI社会論(6.7,8回目)、データサイエンス概論(2.3,4,15回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介: AI社会論(13回目)、データサイエンス概論(第7.8,9,15回)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues): AI社会論(2.3回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト: AI社会論(12回目)、情報機器演習(4.14回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護: AI社会論(9,12回目)、情報機器演習(4.14回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断): AI社会論(12,13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス: AI社会論(9,10,11回目) ・AIサービスの責任論: AI社会論(7,13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介: AI社会論(5.6,13回目)
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性: AI社会論(9,12回目)、情報機器演習(4.14回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取: AI社会論(9,12回目)、情報機器演習(4.14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介: AI社会論(9,12回目)、情報機器演習(4.14回目)

(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会 での実例を題材として、「 データを読む、説明する、 扱う」といった数理・データサイ エンス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの種類(量的変数、質的変数): データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(2回目)、情報機器演習(10.11.12回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値): データサイエンス概論(2.5.11回目)、情報機器演習(10.11.12回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い): データサイエンス概論(5.11回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値): データサイエンス概論(12回目)、データサイエンス演習(6回目) 観測データに含まれる誤差の扱い: データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(5回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ: データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(第2回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出): データサイエンス概論(13、15回目)、データサイエンス演習(6.13.14.15回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列: データサイエンス概論(5回目)、データサイエンス演習(6回目)、情報機器演習(10.11.12回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない): データサイエンス概論(2.4回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ): データサイエンス概論(8回目)、情報機器演習(10.11.12回目)、データサイエンス演習(3回目) データの図表表現(チャート化): データサイエンス概論(9回目)、情報機器演習(10.11.12回目)、データサイエンス演習(5回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト): データサイエンス概論(14回目)、データサイエンス演習(5回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素): データサイエンス概論(7回目)、データサイエンス演習(2回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など): データサイエンス概論(第7、8、9回)、データサイエンス演習(第7回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均): 情報機器演習(10回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データの並び替え、ランキング: 情報機器演習(10回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データ解析ツール(スプレッドシート): 情報機器演習(10回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) 表形式のデータ(csv): 情報機器演習(10回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- データを適切に収集・分析し、情報として活用することができる。
- 統計学の基礎知識を習得でき、統計学的手法を用いてデータ分析に活用することができる。
- 情報社会におけるデータの流れやAIの活用について理解することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

大学等名	鹿児島女子短期大学
プログラム名	ICTIによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

生活科学科生活福祉専攻

③ 修了要件

①1年前期または1年後期に、一般教養科目「AI社会論」または「データサイエンス概論」のいずれかを履修すること(選択必修2単位)。
 ②「情報処理」(1年後期)を履修すること(必修1単位)。
 上記の①と②を満たすことにより、卒業時に「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム」修了証が授与される。
 ③一般教養科目「データサイエンス演習2単位」または「AIプログラミング2単位」のいずれかを履修することで、本学独自による「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム・プラス」修了証が授与される。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					
情報処理	1	○	○						

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI社会論	2		○	○					
情報処理	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2		○	○							
情報処理	1	○	○	○	○						
データサイエンス演習	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AIプログラミング	4-1統計および数理基礎		
AIプログラミング	4-2アルゴリズム基礎		
AIプログラミング	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット: AI社会論(7回目)、データサイエンス概論(4回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化: AI社会論(7.8回目)、データサイエンス概論(4回目)、情報処理(2回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会: AI社会論(9回目)、データサイエンス概論(2.4回目)、情報処理(2回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス: AI社会論(5.6,13回目)、データサイエンス概論(3回目) ・人間の知的活動とAIの関係性: AI社会論(14回目)、データサイエンス概論(3回目) ・データを起点としたもの見方、人間の知的活動を起点としたもの見方: AI社会論(9,10,11回目)、データサイエンス概論(3,4回目) 1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど): AI社会論(12,13,14回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など): AI社会論(12,13,14回目)、データサイエンス概論(3回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど: データサイエンス概論(7回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化: データサイエンス概論(7,8,9回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など): データサイエンス概論(10回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション): AI社会論(10,11回目)、データサイエンス概論(2,15回目) ・データのオープン化(オープンデータ): データサイエンス概論(15回目) 1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など): AI社会論(3,4回目)、データサイエンス概論(2,3回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど: データサイエンス概論(2,3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など: データサイエンス概論(2,3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション、データ同化など: AI社会論(7,8,9回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など: AI社会論(4回目)、データサイエンス概論(7,8,9回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など: AI社会論(5,6,7回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ: AI社会論(5,6,10回目)、認識技術、ルールベース、自動化技術: AI社会論(5,6回目) 1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案): AI社会論(6,7,8回目)、データサイエンス概論(2,3,4,15回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介: AI社会論(13回目)、データサイエンス概論(第7,8,9,15回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues): AI社会論(2,3回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト: AI社会論(12回目)、情報処理(14回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護: AI社会論(9,12回目)、情報処理(14回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断): AI社会論(12,13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス: AI社会論(9,10,11回目) ・AIサービスの責任論: AI社会論(7,13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介: AI社会論(5,6,13回目) 3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性: AI社会論(9,12回目)、情報処理(14回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取: AI社会論(9,12回目)、情報処理(14回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介: AI社会論(9,12回目)、情報処理(14回目)

(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの種類(量的変数、質的変数)：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(2回目)、情報処理(10.11.12回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)：データサイエンス概論(2.5.11回目)、情報処理(10.11.12回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)：データサイエンス概論(5.11回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)：データサイエンス概論(12回目)、データサイエンス演習(6回目) 観測データに含まれる誤差の扱い：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(5回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(第2回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)：データサイエンス概論(13、15回目)、データサイエンス演習(6.13.14.15回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列：データサイエンス概論(5回目)、データサイエンス演習(6回目)、情報処理(10.11.12回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)：データサイエンス概論(2.4回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)：データサイエンス概論(8回目)、情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(3回目) データの図表表現(チャート化)：データサイエンス概論(9回目)、情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(5回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)：データサイエンス概論(14回目)、データサイエンス演習(5回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)：データサイエンス概論(7回目)、データサイエンス演習(2回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)：データサイエンス概論(第7、8、9回)、データサイエンス演習(第7回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)：情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データの並び替え、ランキング：情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データ解析ツール(スプレッドシート)：情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) 表形式のデータ(csv)：情報処理(10.11.12回目)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- データを適切に収集・分析し、情報として活用することができる。
- 統計学の基礎知識を習得でき、統計学的手法を用いてデータ分析に活用することができる。
- 情報社会におけるデータの流れやAIの活用について理解することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

大学等名	鹿児島女子短期大学
プログラム名	ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

教養学科

③ 修了要件

①1年前期または1年後期に、一般教養科目「AI社会論」または「データサイエンス概論」のいずれかを履修すること(選択必修2単位)。 ②「情報活用」(1年前期)を履修すること(必修2単位)。 上記の①と②を満たすことにより、卒業時に「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム」修了証が授与される。 ③一般教養科目「データサイエンス演習2単位」または「AIプログラミング2単位」のいずれかを履修することで、本学独自による「鹿児島女子短期大学デジタル教育プログラム・プラス」修了証が授与される。
--

必要最低科目数・単位数

2 科目

4 単位

履修必須の有無

令和5年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					
情報活用	2	○	○						

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI社会論	2		○	○					
データサイエンス概論	2		○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI社会論	2		○	○					
情報活用	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2		○	○							
情報活用	2	○	○	○	○						
データサイエンス演習	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AIプログラミング	4-1統計および数理基礎		
AIプログラミング	4-2アルゴリズム基礎		
AIプログラミング	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット: AI社会論(7回目)、データサイエンス概論(4回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化: AI社会論(7.8回目)、データサイエンス概論(4回目)、情報活用(5回目) ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会: AI社会論(9回目)、データサイエンス概論(2.4回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス: AI社会論(5.6.13回目)、データサイエンス概論(3回目)、情報活用(2回目) ・人間の知的活動とAIの関係性: AI社会論(14回目)、データサイエンス概論(3回目)、情報活用(3回目) ・データを起点としたものの方、人間の知的活動を起点としたものの方: AI社会論(9.10.11回目)、データサイエンス概論(3.4回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど): AI社会論(12.13.14回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など): AI社会論(12.13.14回目)、データサイエンス概論(3回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど: データサイエンス概論(7回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化: データサイエンス概論(7.8.9回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など): データサイエンス概論(10回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション): AI社会論(10.11回目)、データサイエンス概論(2.15回目) ・データのオープン化(オープンデータ): データサイエンス概論(15回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など): AI社会論(3.4回目)、データサイエンス概論(2.3回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど: データサイエンス概論(2.3回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など: データサイエンス概論(2.3回目)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション、データ同化など: AI社会論(7.8.9回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など: AI社会論(4回目)、データサイエンス概論(7.8.9回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など: AI社会論(5.6.7回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ: AI社会論(5.6.10回目)、認識技術、ルールベース、自動化技術: AI社会論(5.6回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案): AI社会論(6.7.8回目)、データサイエンス概論(2.3.4.15回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介: AI社会論(13回目)、データサイエンス概論(第7.8.9.15回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues): AI社会論(2.3回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト: AI社会論(12回目)、情報活用(2回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護: AI社会論(9.12回目)、情報活用(2回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断): AI社会論(12.13回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス: AI社会論(9.10.11回目) ・AIサービスの責任論: AI社会論(7.13回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介: AI社会論(5.6.13回目)
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性: AI社会論(9.12回目)、情報活用(2.3回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取: AI社会論(9.12回目)、情報活用(2.3回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介: AI社会論(9.12回目)、情報活用(2.3回目)

(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの種類(量的変数、質的変数)：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(2回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)：データサイエンス概論(2.5.11回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)：データサイエンス概論(5.11回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)：データサイエンス概論(12回目)、データサイエンス演習(6回目) 観測データに含まれる誤差の扱い：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(5回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ：データサイエンス概論(10回目)、データサイエンス演習(第2回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)：データサイエンス概論(13、15回目)、データサイエンス演習(6.13.14.15回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列：データサイエンス概論(5回目)、データサイエンス演習(6回目)、情報活用(9.10.11回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)：データサイエンス概論(2.4回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)：データサイエンス概論(8回目)、情報活用(9.10.11回目)、データサイエンス演習(3回目) データの図表表現(チャート化)：データサイエンス概論(9回目)、情報活用(9.10.11回目)、データサイエンス演習(5回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)：データサイエンス概論(14回目)、データサイエンス演習(5回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)：データサイエンス概論(7回目)、データサイエンス演習(2回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)：データサイエンス概論(第7、8、9回)、データサイエンス演習(第7回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)：情報活用(第9.10.11回)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データの並び替え、ランキング：情報活用(第9.10.11回)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) データ解析ツール(スプレッドシート)：情報活用(第9.10.11回)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回) 表形式のデータ(csv)：情報活用(第9.10.11回)、データサイエンス演習(第2.3.4.5.6回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- データを適切に収集・分析し、情報として活用することができる。
- 統計学の基礎知識を習得でき、統計学的手法を用いてデータ分析に活用することができる。
- 情報社会におけるデータの流れやAIの活用について理解することができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
児童教育学科	375	210	420	79	64											79	19%
生活科学科生活福祉専攻	17	20	40	0	0											0	0%
生活科学科食物栄養学専攻	90	60	120	28	19											28	23%
教養学科	165	80	160	63	45											63	39%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	647	370	740	170	128	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	23%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	23%	令和6年度予定	40%	令和7年度予定	60%
令和8年度予定	80%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	

具体的な計画

上記の目標を実現するために、令和5年度より新入生オリエンテーションにおいて、「鹿児島女子短期大学ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム」の必要性を説明するとともに、履修を推奨している。また、修了生に対しては修了証を授与することをアピールしている。プログラムの構成は、卒業要件となる選択科目と必修科目の組み合わせとなっており、令和5年度の履修生は170名で、1年生303名に対する履修率は56%であった。令和6年度の新入生オリエンテーションにおいても、当該プログラムの必要性を説明し、履修率の向上に努めているが、令和6年度入学生の履修率50%（1年生261名中130名が履修）である。なお、本学では、前期と後期に当該プログラムに必要な一般教養科目を配置しており、後期の履修状況により履修率の向上が見込まれる。後期の履修に際し、今後、各学科・専攻において履修率向上に向けて周知徹底を図っていきたい。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラム構成科目は、一般教養科目と専門科目で構成されている。一般教養科目は、希望する受講生が全員受講できるように、前期と後期に同じ科目を配置している。専門科目は、児童教育学科、教養学科は卒業必修科目で全員が受講することになる。また、生活科学科は、選択科目であるが専門科目のため他の科目と重複することはなく、希望する学生は全員受講可能である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムの周知は、新入生オリエンテーションにおいて、プログラムの目的と概要等を記載したチラシを配布のうえ、説明を行っている。

また、本学のホームページ(<https://www.jkajyo.ac.jp/information/id4632/>)にも本教育プログラムの情報を掲載し、学生が履修科目や修了認定等の情報を確認しやすい環境を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

多くの学生に無理なく本教育プログラムを履修してもらうため、本教育プログラムを構成している科目のうち、卒業要件で選択科目としている一般教養科目については、専門科目と授業時間が重複しないよう一般教養選択枠を時間割上に配置し配慮をしている。

本教育プログラムは、前期と後期に同一の一般教養科目を配置し、いずれかの学期から単位取得できる時間割となっている。授業時間以外でも担当教員がオフィスアワー等を利用して対面で学生の質疑応答に当たることができる。

また、PCやネットワーク環境に関する質問やサポートは、情報ネットワーク室員でも常時受け付けており、効率的かつ効果的なサポート体制となっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

教員ごとにオフィスアワーを設けており、学生は授業時間以外にも質疑応答を行うことができる。また、本学でオンライン教育ツールとして導入しているGoogle ClassroomやMicrosoft Teamsのチャット機能を利用して教員と学生間のやりとりも可能である。また、授業の資料等は授業前および終了後に、適宜、前述したオンライン教育ツールの共有フォルダに担当教員がアップロードする。それを活用して、学生は授業の予習、復習が可能となっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

鹿児島女子短期大学点検・評価委員会、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)

(責任者名) 村若 修

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)において、プログラムの履修状況・単位取得状況を分析する。また、授業支援システムの学習記録から課題毎の提出率等を把握したうえで課題の難易度の適正化をするなど、修得状況の改善に活用している。
学修成果	鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)において、授業評価の得点分布を分析することで全体的な理解度を把握するほか、授業支援システムの学習記録から課題毎の提出率等を分析し、学習内容(スキルセット)毎の理解度を把握することができる。これらの結果を本教育プログラムの改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムの履修者全員に対して授業理解度アンケートを実施しており、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)及びIR室において学生の理解度を分析し、授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では推奨度は確認していないが、履修者全員に対して実施している授業理解度アンケートにおいて、後輩学生への履修時の心構えや関連して履修すべき科目等について確認している。その結果は本教育プログラムの専用ページに掲載し、後輩学生への履修時の参考情報として活用している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学では本教育プログラムを令和5年度入学生より開始している。令和6年度入学生に対しては、新入生オリエンテーションにおいて、積極的に履修を進めているが、令和5年度の履修率56%(1年生303名中170名が履修)に対し、令和6年度前期時点の履修率は50%(1年生261名中130名が履修)である。なお、本学では、前期と後期に当該プログラムに必要な一般教養科目を配置しており、後期の履修に際し、今後、各学科・専攻において周知徹底を図っていきたい。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>まだ修了者のほとんどが在学中であり、進路は決定していないが、修了者の中には、情報関連分野の企業への就職を志望する学生も出てきている。情報関連分野以外の民間企業や公務員志望の学生においても本教育プログラムで学んだ知識を活かせると考えているようである。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムに対して産業界から直接意見をもらうといったことはこれまで行っていない。しかし、本学で年1回開催している地域連携会議において、キャリア教育を通して産業界との交流が見込まれており、意見を求める機会を設けたいと考えている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの授業科目の導入において、時事的なトピックを交えて、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義等について理解を深めるよう取り組んでいる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>内容・水準の維持・向上については、「数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルのモデルカリキュラム」に基づきリテラシーレベルの内容の確実な習得を計画するとともに、モデルカリキュラムの「オプション」内容をできる限り盛り込み、学生が実際に手を動かしながら実感できる演習を充実させることで、分かりやすい授業となるよう改善を進める。</p>

授業科目名	AI社会論	科目ナンバー	AA041204
科目	—		
施行規則に定める 科目区分または事	—		
担当者	根本 大志		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	「AI社会論」ではAIとは何か、現在の諸企業が取り組んでいる具体的事例について学ぶ。DXの必要性や、今後の将来性、問題点を総合的に俯瞰し、実社会に出てから役立つ知識を体得する。また今日におけるAI等のデジタルツールが及ぼす社会的影響に関しても学ぶ。特に、人工知能の特性や多様な側面を知ることで、今後代替されていく将来の職業や求められる人材に関しても考える。
授業の到達目標	1. DXとは何か、概念や役割、重要性を理解する。 2. AIの歴史的側面や得意分野や課題を理解する。 3. 現在使われているAIツールや普及しているBIツールに関して自分の意見を述べられる。

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	根本
第2回	コンピューターとITに関する基礎知識	根本
第3回	産業構造の変化とICT	根本
第4回	BIツールとその普及率	根本
第5回	AIとは何か、事例1(エキスパートシステム、遺伝的アルゴリズム)	根本
第6回	AIとは何か、事例2(機械学習と深層学習)	根本
第7回	AIのできないこと、人間の強み	根本
第8回	DXの概念、その影響や課題	根本
第9回	データ駆動型社会、データの重要性	根本
第10回	ビッグデータとクラウド	根本
第11回	ソーシャルメディアとパーソナルデータ	根本
第12回	AI時代における個人情報、EUのGDPRを事例として	根本
第13回	AIコンテンツが生成するデジタルコンテンツ	根本
第14回	AI時代における人材と今後のキャリア	根本
第15回	授業の総括	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○
担当教員の実務経験 と授業の関連	AIに関する研究経験を活かす。				
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「超AI入門ーディープラーニングはどこまで進化するのか」松尾豊(著)NHK出版 2019年 ¥1320 ISBN978-4140817711「Google Colaboratoryで学ぶ! あたらしい人工知能技術の教科書 機械学習・ 深層学習・強化学習で学ぶAIの基礎技術」我妻幸長(著)翔泳社 2021年 ¥3740 978-4798167206
成績評価基準	1. DXとは何か、概念や役割、重要性を理解できること。 2. AIの歴史的側面や得意分野や課題を理解できること。 3. 現在使われているAIツールや普及しているBIツールに関して自分の意見を述べられること。
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
GPA基準	
備考	

授業科目名	データサイエンス概論	科目ナンバー	AA041205
科目	—		
施行規則に定める 科目区分または事	—		
担当者	根本 大志		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	<p>情報化社会におけるデータの量は日々増え続けている。それらのデータは加工され有益な情報になり、より豊かで便利な生活を送るために、我々の生活に活かされている。本講義ではそのようなデータサイエンスの考え方や技術が利用されている概況を理解し、統計的なモノの見方を身につける。データサイエンスとは何なのかを自らの言葉で説明できる、統計的考え方を理解する、基本的な統計処理を行うことを目指す。時間が許せば機械学習を用いた予測を行う。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスの概要や利活用されている現状を知る。 2. データサイエンスと統計の違い、基本的な統計的考え方を理解する。 3. エクセルを用いた基礎的な統計処理を学ぶ。

授業計画		担当者
第1回	授業の導入 (内容)データとは何か、データの種類	根本
第2回	データサイエンス (内容)データサイエンスの概要と目的	根本
第3回	データサイエンスの活用事例 (内容)回帰、分類、予測	根本
第4回	統計とデータサイエンスの違い (内容)統計的な考え方	根本
第5回	単純集計表とクロス集計表 (内容)統計の基礎的な集計を行う。	根本
第6回	エクセルでできる統計処理 (内容)統計で使える関数を知る。	根本
第7回	可視化とその意義 (内容)可視化の意義、アンスコム の例	根本
第8回	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ (内容)基礎的なグラフの描画と活用事例	根本
第9回	散布図、レーダーチャート、ヒストグラム (内容)統計でよく使われるグラフの描画と活用事例	根本
第10回	基本統計量による表現と意味 (内容)統計量とは何か、エクセルを用いたデータ分析	根本
第11回	代表値の利用 (内容)代表値とは何か、平均値と中央値の違いと使い分け	根本
第12回	散布度の利用 (内容)データの散らばりを考える。分散と標準偏差	根本
第13回	相関と回帰 (内容)相関関係とは何か、回帰分析で分かること	根本
第14回	相関関係と因果関係 (内容)相関と因果の違い。擬似相関を知る。	根本
第15回	政府統計データの分析 (内容)世帯年収と度数分布表の見方、授業の総括	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○
担当教員の 実務経験 と授業の 関連	テキスト解析の経験を活かす。				
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「教養としてのデータサイエンス」内田誠一(著)講談社 2021年 ¥1980 ISBN978-4065238097 「統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識」三好大悟, 堅田洋資(著)インプレス 2021年 ¥1980 978-4295011088
成績評価基準	1. データサイエンスの概要や利活用されている現状を知る。 2. データサイエンスと統計の違い、基本的な統計的考え方を理解できること。 3. エクセルを用いた基礎的な統計処理ができること。
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
GPA基準	
備考	

授業科目名	情報機器演習	科目ナンバー	J共1156
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事	情報機器の操作		
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [教員免許]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	コンピュータなどICT(情報通信技術)機器によるインターネット利用が広く普及している。さらに、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において、コンピュータやその他のICT機器操作の基礎を身につけ、教育現場でもICT機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	1. I C T (情報通信技術)機器の基本的な操作ができるようになる 2. インターネットを利用できるようになる 3. I C T 機器を教育現場で活用できるようになる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	渡邊
第2回	コンピュータとインターネットの歴史 / キーボード入力	渡邊
第3回	ブラウザを使おう～ネット検索のコツ	渡邊
第4回	短大のWi-Fiにつなごう / 情報セキュリティを学ぼう	渡邊
第5回	短大図書館での情報の探し方を知ろう	渡邊
第6回	Wordを使ってみよう(1)～園だよりを作ろう1	渡邊
第7回	Wordを使ってみよう(2)～園だよりを作ろう2	渡邊
第8回	Wordを使ってみよう(3)～指導案を作ろう1	渡邊
第9回	Wordを使ってみよう(4)～指導案を作ろう2	渡邊
第10回	Excelを使ってみよう～会計表を作ろう	渡邊
第11回	PowerPointを使ってみよう(1)～自分をプレゼンテーションしよう	渡邊
第12回	PowerPointを使ってみよう(2)～教材を作ってみよう	渡邊
第13回	実物投影機を使ってみよう	渡邊
第14回	著作権について考えよう / Web記事を作成しよう	渡邊
第15回	1人1台端末環境を体験しよう	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして、仕事や生活の道具としてのICTの操作や活用法について教授する。				
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の場合で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	月曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室（西館417号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』 実教出版企画開発部 実教出版 2022年 1045円(税抜き) ISBN978-4-407-35937-4『保育者のためのパソコン講座』 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文 書林 2018年 2000円(税抜き) ISBN978-4-89347-283-0
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の基本的な操作やインターネット利用ができること ・ICT機器の教育現場での活用法を考えられること
成績評価の方法	毎回の課題・振り返り(70%)と最終課題レポート(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

授業科目名	情報機器演習	科目ナンバー	S21114
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分または事	情報機器の操作		
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄教免 選択：栄養士		

授業の概要	コンピュータなどICT(情報通信技術)機器によるインターネット利用が広く普及している。さらに、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において、コンピュータやその他のICT機器操作の基礎を身につけ、教育現場でもICT機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	1. I C T (情報通信技術)機器の基本的な操作ができるようになる 2. インターネットを利用できるようになる 3. I C T 機器を教育現場で活用できるようになる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	渡邊
第2回	コンピュータとインターネットの歴史 / キーボード入力	渡邊
第3回	ブラウザを使おう～ネット検索のコツ	渡邊
第4回	短大のWi-Fiにつなごう / 情報セキュリティを学ぼう	渡邊
第5回	短大図書館での情報の探し方を知ろう	渡邊
第6回	Wordを使ってみよう(1)～園だよりを作ろう1	渡邊
第7回	Wordを使ってみよう(2)～園だよりを作ろう2	渡邊
第8回	Wordを使ってみよう(3)～指導案を作ろう1	渡邊
第9回	Wordを使ってみよう(4)～指導案を作ろう2	渡邊
第10回	Excelを使ってみよう～会計表を作ろう	渡邊
第11回	PowerPointを使ってみよう(1)～自分をプレゼンテーションしよう	渡邊
第12回	PowerPointを使ってみよう(2)～教材を作ってみよう	渡邊
第13回	実物投影機を使ってみよう	渡邊
第14回	著作権について考えよう / Web記事を作成しよう	渡邊
第15回	1人1台端末環境を体験しよう	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして、仕事や生活の道具としてのICTの操作や活用法について教授する。				
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の間で行う。個別に対応が必要な 場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	月曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室（西館417号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』 実教出版企画開発部 実教出版 2022年 1045円(税抜き) ISBN978-4-407-35937-4『保育者のためのパソコン講座』 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文 書林 2018年 2000円(税抜き) ISBN978-4-89347-283-0
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の基本的な操作やインターネット利用ができること ・ICT機器の教育現場での活用法を考えられること
成績評価の方法	毎回の課題・振り返り(70%)と最終課題レポート(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

授業科目名	情報処理	科目ナンバー	S11210
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事	—		
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：介護福祉士 必修：介護保険実務士、医事実務士		

授業の概要	コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、仕事や生活に情報機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	1. ICTの基本的な操作技術を習得する 2. インターネットを理解し活用できるようになる 3. コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる

授業計画		担当者
第1回	情報処理?身の回りのICT活用の振り返りから	渡邊
第2回	キーボード練習	渡邊
第3回	コンピュータ・インターネットの歴史	渡邊
第4回	ブラウザを使おう	渡邊
第5回	電子メールを使おう	渡邊
第6回	PowerPointを使おう/ファイルの保存・管理	渡邊
第7回	Word(1)テンプレート利用	渡邊
第8回	Word(2)文字飾り、図・写真挿入	渡邊
第9回	Word(3)表挿入、印刷	渡邊
第10回	Excel(1)表の作成、データ入力・並び替え	渡邊
第11回	Excel(2)関数、データ貼り付け	渡邊
第12回	Excel(3)グラフ、印刷	渡邊
第13回	オンライン会議を体験しよう/Web記事を作成しよう	渡邊
第14回	情報セキュリティについて知ろう	渡邊
第15回	まとめ(最終課題レポート)	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして、仕事や生活の道具としてのICTの操作や活用法について教授する。				
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対する フィードバックの 方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の場合で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:30~18:00 研究室（西館417号室）
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』 実教出版企画開発部 実教出版 2022年 1045円(税抜き) ISBN978-4-407-35937-4
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの基本的な技術を習得すること ・インターネットを理解し活用できること ・コンピュータを仕事や生活の道具として活用できること
成績評価の方法	・毎回の課題・振り返り(70%)と最終課題レポート(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

授業科目名	情報活用	科目ナンバー	C01108
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事	—		
担当者	根本 大志		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [メディア・クリエイティブ]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)、情報処理士、ウェブデザイン実務士		

授業の概要	入学時までには習得した各自のICTリテラシーを確認するとともに、インターネット、メールやコラボレーション(授業支援)ツールなどの基本アプリを操作するスキル、Office系アプリ(文書作成・表計算・プレゼンテーション)の基本的な操作スキルを身につける。なお、Office系アプリはデスクトップ版とクラウド版の両方を活用する。
授業の到達目標	1. 基本アプリの操作スキルを習得する。 2. 各種アプリの基本的な操作スキルを習得する。

授業計画		担当者
第1回	パソコンの基本操作	根本
第2回	インターネットの基礎1短大での情報活用	根本
第3回	インターネットの基礎2ネット検索のコツ	根本
第4回	メールの基礎	根本
第5回	授業支援ツールの基礎・スマートフォンとの連携	根本
第6回	文書作成基礎1(基礎的な文書作成)	根本
第7回	文書作成基礎2(表入り文書作成)	根本
第8回	文書作成応用(図形・写真)	根本
第9回	表計算基礎1(表作成)	根本
第10回	表計算基礎2(関数利用)	根本
第11回	表計算応用(グラフ作成)	根本
第12回	プレゼンテーション基礎1(スライド作成・スライドショー)	根本
第13回	プレゼンテーション基礎2(動画埋込み)	根本
第14回	総合演習(各アプリケーションの連携・共有)	根本
第15回	まとめ	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	情報系国際会議委員長としての実務経験を活かしてICTの操作や活用法について教授する。				
事前学習	前回演習時に提示した課題を完成させて提出する。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の振り返りを記録し、提出する。時間内に完成できなかった項目・内容を復習する。理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	毎回の振り返り・課題についてのフィードバックは、次の時間に全体の間で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーの利用をする。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	『30時間でマスター Office2019』 実教出版企画開発部 実教出版 2019年 1100円 ISBN978-4-407-34835-4
成績評価基準	パソコンの基本的操作スキルを習得すること 各種アプリの基本的な操作スキルを習得すること
成績評価の方法	毎回の課題(70%)と振り返り(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	課題及び振り返りは授業支援ツールやWebを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

授業科目名	データサイエンス演習	科目ナンバー	AA043014
科目	—		
施行規則に定める科目区分または事	—		
担当者	根本 大志		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	「データサイエンス演習」ではデータサイエンスの基礎とその実践を学ぶ。現代社会においてデータサイエンスがいかに求められているか、またその重要性や有用性について、実際の事例を通して理解を深めてゆく。特にAI時代となっている今日において多様化する事象やデータについて、最先端の事例を交え統計手法や解析方法を紹介してゆく予定である。また、単に講義をするだけでなく、様々な数値データを可視化する演習を織り交ぜることで、受講生にとっても実用性のある実践的な講義にする。
授業の到達目標	次のような内容を理解し、実際にデータを使って分析することを目的としています。 1.データの理解やそのリテラシーの養成。 2.データサイエンスを行う流れを理解する。 3.データを加工し、可視化するツールを把握する。

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス：授業の導入と概要	根本
第2回	エクセルを用いたデータ分析演習（1）データマネジメント	根本
第3回	エクセルを用いたデータ分析演習（2）パレート分析	根本
第4回	エクセルを用いたデータ分析演習（3）クロス集計分析	根本
第5回	エクセルを用いたデータ分析演習（4）度数分布と基本統計量	根本
第6回	エクセルを用いたデータ分析演習（5）相関・予測と回帰分析	根本
第7回	BIツールを用いたデータ分析演習（1）BIツール「Tableau」のインストールと使用方法	根本
第8回	BIツールを用いたデータ分析演習（2）課題発見と絞り込み	根本
第9回	BIツールを用いたデータ分析演習（3）課題における原因の特定	根本
第10回	BIツールを用いたデータ分析演習（4）対策の検討・実行	根本
第11回	BIツールを用いたデータ分析演習（5）改善に向けた分析	根本
第12回	BIツールを用いたデータ分析演習（6）分析の目的・課題の整理	根本
第13回	アンケート調査演習（1）標本調査と課題の説明	根本
第14回	アンケート調査演習（2）アンケート調査設問の作成	根本
第15回	調査結果の発表とまとめ	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	テキスト解析の経験を活かす。				
事前学習	今日の社会におけるデータサイエンスの重要性を理解し、日常的に統計に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じて課題等を課す。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良
テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「日本統計学会公式認定統計検定データサイエンス基礎対応 データアナリティクス基礎」日本統計学会(著) 日本能率協会マネジメントセンター 2023年 ¥2640 978-482072594 「BIツールを使ったデータ分析のポイント」黒木賢一, 下山輝昌(著) 秀和システム 2023年 ¥2640 978-4798070193
成績評価基準	1.データの理解やそのリテラシーを養成できていること。 2.データサイエンスを行う流れを理解できること。 3.データを加工し、可視化するツールを把握することができること。
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
GPA基準	
備考	

授業科目名	A Iプログラミング	科目ナンバー	AA044017
科目	—		
施行規則に定める 科目区分または事	—		
担当者	根本 大志		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	「AIプログラミング」ではプログラミングにおける基本的な内容を扱う。特に、Webデザインをするために利用される、HTML,CSS, Javascriptを通してプログラミングの考え方を養う。WEBデザインやフロントエンド系のプログラミングの役割を学ぶことで、興味・関心を広げる。それに加えて、既存のJavascriptライブラリを用いて、機械学習モデルを扱い、AIに関する理解も同時に深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会におけるプログラミングの役割や重要性を理解する。 2. Javascript等のフロントエンド開発言語でプログラミングの基礎や考え方を習得する。 3. WEBデザインを通して自らの手でコーディングをする。 4. シナリオ型の対話型AIの開発を通して、その仕組みを学び、オリジナルのAIを開発する。

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	根本
第2回	コンピューターとプログラミング、エディタ操作	根本
第3回	プログラミングツールの使い方、HTMLの基本	根本
第4回	HTML演習	根本
第5回	CSSの基本	根本
第6回	CSSレイアウト演習	根本
第7回	Javascriptの基本構文	根本
第8回	Javascript演習	根本
第9回	jQueryの概要	根本
第10回	アニメーションを表示する(1)	根本
第11回	アニメーションを表示する(2)	根本
第12回	Vue.jsでToDoリストを作る(1)	根本
第13回	Vue.jsでToDoリストを作る(2)	根本
第14回	webアプリケーション開発演習①、チャットボットの開発	根本
第15回	webアプリケーション開発演習②、チャットボットの応用、まとめ	根本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○
担当教員の実務経験 と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を活かす。				

事前学習	今日の社会におけるプログラミングの重要性を理解し、日常的にWEBサイト等に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対する フィードバックの 方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	講義内にて参照
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会におけるプログラミングの役割や重要性を理解できること。 2. Javascript等のフロントエンド開発言語でプログラミングの基礎や考え方を習得できていること。 3. WEBデザインを通して自らの手でコーディングをすることができること。 4. シナリオ型の対話型AIの開発を通して、その仕組みを学び、オリジナルのAIを開発できること。
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
GPA基準	
備考	<p>キーワード</p> <p>WEBデザイン JavaScript HTML CSS チャットボット Vue.js</p> <p>PHP MySQL 情報デザイン</p>

令和5年度入学生 教育課程

別表 第1 児童教育学科教育課程表

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			卒業履修単位数	必修/選択	1前	1後	2前	2後	
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る								
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)								
	日本語表現の基礎	講義	2	2	2				
	倫理学	講義	2	2	2				
	絵本論	講義	2		2				
	心理学	講義	2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)								
	体育講義	講義	1				1		— 幼教免・小教免・保育士証必修
	体育実技	実技	1					1	
	社会を知る・社会につながる								
	社会の探求(社会に目を向ける)								
	社会学	講義	2	2	2				— 幼教免・小教免必修
	日本国憲法	講義	2		2				
	歴史学	講義	2	2	2				
	総合教養Ⅰ	講義	2	2					
	総合教養Ⅱ	講義	2		2				
	AI社会論 ○	講義	2	2	2				デジタル教育プログラム選択必修
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)								
	キャリアガイダンス	演習	2		1				1
	世界を知る・世界を広げる								
	異文化の探求(海外に目を向ける)								
	海外事情	演習	2		2				海外研修
	公共人類学	講義	2	2	2				
	英語の文学とメディア	講義	2	2	2				
	アメリカ文学	講義	2	2	2				
	英語演習Ⅰ	演習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修 * 日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表
	中国語演習Ⅰ	演習			2				
	韓国語演習Ⅰ	演習			2				
	日本語演習Ⅰ	演習		2					
	英語演習Ⅱ	演習	2			2			
中国語演習Ⅱ	演習				2				
韓国語演習Ⅱ	演習				2				
日本語演習Ⅱ	演習				2				
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)									
数学基礎	講義	2	2	2					
理科基礎	講義	2	2	2					
分子からみた生物	講義	2	2	2					
SDGs論	演習	2		2					
データサイエンス概論 ○	講義	2	2	2				デジタル教育プログラム選択必修	
データサイエンス演習 ◎	演習	2				2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
AIプログラミング ◎	演習	2					2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
最低修得単位数			6	10					
卒業最低修得単位数			16						

注: ○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)

◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	授業科目	授業形態	履修方法								開講学期単位数				備考
			卒業履修単位数		小教免修得単位数		幼教免修得単位数		保育士証修得単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目 (教員免許に関する科目等)	国語(書写を含む)	講義	2	2									2		
	社会	講義	2		2								2		
	算数	講義	2	2								2			
	理科	講義	2		2								2		
	生活	講義	2	2									2		
	音楽	演習	2	2						2					
	図画工作	演習	2	2						2					
	家庭	講義	2		2									2	
	体育	演習	2	2									2		
	外国語	演習	2	2									2		
	国語科指導法	演習	2	2						2					
	社会科指導法	演習	2	2						2					
	算数科指導法	演習	2	2						2					
	理科指導法	演習	2	2									2		
	生活科指導法	演習	2	2										2	
	音楽科指導法	演習	2	2							2				
	図画工作科指導法	演習	2	2							2				
	家庭科指導法	演習	2	2										2	
	体育科指導法	演習	2	2										2	
	外国語指導法	演習	2	2										2	
	幼児と健康	演習	1			1	1							1	
	幼児と人間関係	演習	1			1	1						1		
	幼児と環境	演習	1			1	1						1		
	幼児と言葉	演習	1			1	1				1(小幼保)	1(幼保)			
	幼児と表現	演習	2			2	2		2						
	保育内容総論	演習	2			2	2							2	
	保育内容(健康)の指導法	演習	2			2	2						2		
	保育内容(人間関係)の指導法	演習	2			2	2						2		
	保育内容(環境)の指導法	演習	2			2	2			2					
	保育内容(言葉)の指導法	演習	2			2	2		2						
	保育内容(表現)の指導法	演習	2			2	2			2					
	教育原理	講義	2		2	2	2			2					
	保育原理	講義	2			2	2		2						
	教職概論	講義	2		2	2	2		2						
	教育制度論	講義	2		2	2		2	2						
	教育心理学▲	講義	2		2	2	2		2						
	特別支援教育・保育	講義	2		2	2	2			2					
	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	講義	2		2	2	2						2		
	道徳教育の指導法	演習	2	2										2	
	総合的な学習の時間の指導法	演習	2	2										2	
特別活動の指導法	演習	2	2									2			
教育の方法・技術	講義	2		2					2						
保育の方法・技術	講義	2			2	2						2			
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	講義	1	1							1					
生徒指導・進路指導	講義	2	2							2					
幼児理解	講義	2			2	2							2		

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	授業科目	授業形態	履修方法								開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数		小教免修得単位数		幼教免修得単位数		保育士証修得単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択						
専門科目 (教員免許に関する科目等)	教育相談▲	講義	2		2		2		2			2				
	幼稚園教育実習Ⅰ指導	講義		1		1		1				1				
	幼稚園教育実習Ⅰ	実習		2		2		2				2				
	小学校教育実習指導	講義		1		1								1		
	小学校教育実習	実習		2		2								2		
	幼稚園教育実習Ⅱ指導	講義		1										1		
	幼稚園教育実習Ⅱ	実習		2										2		
	保育・教職実践演習	演習	2				2		2							2
	小学校教職実践演習	演習			2											2
	社会福祉	講義	2		2		2		2		2					
	情報機器演習	演習	2		2		2		2		2					
	教師と法	講義		2		2								2		
	子どもと人権	講義		1		1		1		1				1		
	環境教育演習	演習		1		1										1
	カウンセリング入門▲	講義		1		1		1		1						1
	生涯学習論	講義		2		2										2
	家族関係論	講義		2		2		2		2						2
	子どもと音楽Ⅰ	演習		2				2		2		2				
	子どもと音楽Ⅱ	演習		2				2		2		2				
	子どもと音楽Ⅲ	演習		2				2		2				2		
	子どもと音楽Ⅳ	演習		2				2		2						2
	子どもと造形Ⅰ	演習		2				2		2				2		
子どもと造形Ⅱ	演習		2				2		2						2	
子どもと運動・身体表現	演習		2				2		2						2	
読書と豊かな人間性	演習		2		2		2		2						2	
			司書教諭必修													
専門科目 (保育士証に関する科目等)	子ども家庭福祉	講義	2					2			2					
	保育者論	講義	2					2			2					
	子ども家庭支援論	講義	2					2					2			
	社会的養護Ⅰ	講義	2					2			2					
	社会的養護Ⅱ	演習	1					1					1			
	保育の心理学	講義	2					2		2						
	子ども家庭支援の心理学	演習	2					2								2
	子どもの保健	講義	2					2		2						
	子どもの健康と安全	演習	1					1				1				
	子どもの食と栄養	演習	2					2						2		
	子どもの理解と援助	演習	1					1				1				
	子育て支援	演習	1					1								1
	乳児保育Ⅰ	講義	2					2		2						
	乳児保育Ⅱ	演習	1					1				1				
	保育所実習Ⅰ指導	演習	1					1				1				
	保育所実習Ⅰ	実習	2					2				2				
	施設実習Ⅰ指導	演習	1					1						1		
	施設実習Ⅰ	実習	2					2						2		
	保育所実習Ⅱ指導	演習	1											1		
	保育所実習Ⅱ	実習	2						3					2		
施設実習Ⅱ指導	演習	1											1			
施設実習Ⅱ	実習	2											2			
			保育士証はいずれかの実習指導及び実習を選択必修													
最低修得単位数計			22	24	70		50		74	2						
卒業最低修得単位数			必修 22		選択 24		合計 46									
最低修得単位数総計			卒業 62		[小教免 86]		[幼教免 66]				[保育士証 92]					

令和5年度入学生 教育課程

別表 第2 生活科学科 生活福祉専攻教育課程表

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数	必修 選択	1前	1後	2前	2後		
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	日本語表現の基礎	講義		2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
	倫理学★	講義		2	2	2				
	絵本論	講義		2		2				
	心理学	講義		2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
	体育講義	講義		1					1	
	体育実技	実技		1					1	
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	社会学	講義		2	2	2				デジタル教育プログラム選択必修
	日本国憲法	講義		2	2	2				
	歴史学	講義		2	2	2				
	WE LOVE 鹿児島!	演習	1						1	
	総合教養 I	講義		2	2					
	総合教養 II	講義		2		2				
	AI社会論 ○	講義		2	2	2				
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
	キャリアガイダンス I	演習	1			1				
	キャリアガイダンス II	演習	1					1		
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	海外事情	演習		2		2				海外研修
	公共人類学★	講義		2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
	英語の文学とメディア	講義		2	2	2				英語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかの I・II を連続選択履修
	アメリカ文学	講義		2	2	2				
	英語演習 I	演習	2			2				
	中国語演習 I	演習				2				
	韓国語演習 I	演習				2				
	日本語演習 I	演習				2				
	英語演習 II	演習	2				2			
中国語演習 II	演習					2				
韓国語演習 II	演習					2				
日本語演習 II	演習						2			
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
数学基礎★	講義		2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)	
理科基礎	講義		2	2	2					
分子からみた生物	講義		2	2	2					
SDGs論	演習		2		2					
データサイエンス概論 ○	講義		2	2	2				デジタル教育プログラム選択必修	
データサイエンス演習 ◎	演習		2				2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
AIプログラミング ◎	演習		2					2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
最低修得単位数			7	7						
卒業最低修得単位数			14							

注: ★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」
○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)
◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択						
専 門 科 目	【人間と社会】											
	人間の尊厳と自立	講義	2		2			2				医事実務士必修
	人間関係とコミュニケーション▲	講義		2	2					2		
	チームマネジメント	講義		2	2					2		
	社会学概論	講義		2	2		2					
	社会と制度の理解	講義	2		2		2					
	社会保障論	講義	2		2				2			
	住環境と福祉★	講義		2		2			2			
	レクリエーション概論★	講義		1		1	1					
	【介護】											
	介護の基本Ⅰ	講義	2		2		2					介護保険実務士選択科目
	介護の基本Ⅱ	演習	1		1		1					
	介護の基本Ⅲ	講義	2		2				2			
	介護の基本Ⅳ	講義	2		2					2		
	社会福祉援助技術▲	講義		2	2			2				
	リハビリテーション論	講義		2	2				2			
	コミュニケーションの基礎▲	講義	2		2			2				
	コミュニケーション演習	演習		1	1				1			
	生活支援技術A	演習	2		2		2					
	生活支援技術B	演習		2	2			2				
	生活支援技術C	演習		2	2				2			
	生活支援技術D	演習		1	1					1		
	生活支援技術(住)	講義		2	2		2					
	生活支援技術(食・衣)	演習		2	2					2		
	介護過程Ⅰ	講義		2	2		2					
	介護過程Ⅱ	講義		2	2			2				
	介護過程Ⅲ	演習		1	1				1			
	介護過程Ⅳ	演習		1	1					1		
	ケアマネジメント	演習		1	1				1			
	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	演習		2	2		2					介護保険実務士2科目選択必修
	介護総合演習Ⅲ	演習		1	1				1			
	介護総合演習Ⅳ	演習		1	1					1		
	事例研究(ゼミナール)	演習		1	1					1		
介護実習Ⅰ	実習		2	2			2					
介護実習Ⅱ	実習		3	3			3					
介護実習Ⅲ	実習		3	3				3				
介護実習Ⅳ	実習		3	3					3			

注：★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」

▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修

区分	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択						
専門科目	【こころとからだのしくみ】											
	発達と老化の理解 ▲	講義	2		2		2					
	高齢者の介護	演習	1		1			1				
	認知症の理解	講義	2		2			2				
	認知症者の介護	演習		1	1				1			
	障害の理解Ⅰ	講義	2		2			2				
	障害の理解Ⅱ	講義		2	2				2			
	こころとからだのしくみⅠ(医学一般)	講義	2		2			2			医事実務士必修科目	
	こころとからだのしくみⅡ(精神)▲	講義		2	2					2	介護保険実務士1科目選択必修	
	介護技術の基礎	講義	2		2		2					
	ターミナルケア	講義		2	2						2	
	【医療的ケア】											
	医療的ケア	講義		2	2		2					
	経管栄養	講義		2	2			2				
	喀痰吸引	講義		2	2				2			
	経管栄養演習	演習		1	1				1			
	喀痰吸引演習	演習		1	1						1	
	医事実務士											
	基礎医学関連科目											
	薬理の基礎	講義		2		2		2				医事実務士必修
	人類学	講義		2		2					2	
	医事・実務関係科目											
	医療事務総論	講義		2		2		2				医事実務士必修
	医療事務演習	演習		2		2		2				
	介護保険実務士											
	介護事務総論	講義		2		2			2			介護保険実務士必修
	介護事務演習	演習		1		1					1	
	関連科目											
	情報処理	演習		1		1		1				医事/介護保険実務士必修
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習		1		1	1					レクリエーションインストラクター資格必修
レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習		1		1		1					
レクリエーションワーク	演習		1		1				1			
介護ホスピタリティ	演習		1		1	1						
最低修得単位数			28	20	86							
卒業最低修得単位数			必修 28	選択 20	合計 48							
最低修得単位数総計			卒業 62	[介護福祉士 100]								

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修

令和5年度入学生 教育課程

別表 第3 生活科学科 食物栄養学専攻教育課程表

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数	必修	選択	1前	1後	2前		2後
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	日本語表現の基礎	講義		2	2	2				
	倫理学	講義		2	2	2				
	絵本論	講義		2		2				
	心理学	講義		2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
	体育講義	講義		1				1	栄教免必修	
	体育実技	実技		1				1		
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	社会学	講義		2	2	2			栄教免必修	
	日本国憲法	講義		2	2	2				
	歴史学	講義		2	2	2				
	総合・食育ゼミ◆◆	演習	1					1	こども食物アレルギー実務課程必修(◆◆)	
	総合教養I	講義		2	2					
	総合教養II	講義		2		2				
	AI社会論○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
	キャリアガイダンスI	演習	1				1			
	キャリアガイダンスII	演習	1					1		
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	海外事情	演習		2		2			海外研修	
	公共人類学	講義		2	2	2				
	英語の文学とメディア	講義		2	2	2				
	アメリカ文学	講義		2	2	2				
	英語演習I	演習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかのI・IIを連続選択履修	
	中国語演習I	演習			2					
	韓国語演習I	演習		2						
	日本語演習I	演習		2						
	英語演習II	演習	2			2				
	中国語演習II	演習				2				
韓国語演習II	演習				2					
日本語演習II	演習				2					
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
数学基礎	講義		2	2	2					
理科基礎	講義		2	2	2					
分子からみた生物	講義		2	2	2					
SDGs論	演習		2		2					
データサイエンス概論○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修		
データサイエンス演習◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修		
AIプログラミング◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修		
最低修得単位数			7	7						
卒業最低修得単位数			14							

注: ○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)
◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	授業科目	授業形態	履修方法						開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄養教諭修得単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択						
専 門 科 目	社会生活と健康												児童福祉を含む	
	公衆衛生学Ⅰ	講義		1	1		1				1			
	公衆衛生学Ⅱ	講義		1	1		1					1		
	社会福祉概論	講義	2		2		2					2		
	人体の構造と機能													
	解剖生理学Ⅰ	講義		1	1		1		1					
	解剖生理学Ⅱ	講義		2	2		2			2				
	解剖生理学実験☆	実験		1	1		1				1			
	運動生理学	講義		1	1		1					1		
	栄養生化学Ⅰ	講義	1		1		1		1					
	栄養生化学Ⅱ	講義		1	1		1			1				
	栄養生化学Ⅲ◆	講義		1	1		1				1			
	栄養生化学Ⅳ	講義		1	1		1					1		
	病態生化学	講義		1		1		1				1		
	生化学実験A☆	実験		1			1					1		
	生化学実験B☆	実験		1		1						1		
	食品と衛生													栄養士・栄養教諭選択必修(☆)
	食品学総論	講義	2		2		2		2					
	食品学各論◆	講義	2		2		2			2				
	食品学実験☆	実験		1	1		1		1					
	食品衛生学	講義		2	2		2		2					
	食品衛生学実験	実験		1	1		1			1				
	食品加工学実習☆	実習		1	1		1				1			
	栄養と健康													食品加工学を含む 子ども食物アレルギー実務課程選択必修(◆)
	栄養学総論Ⅰ	講義	1		1		1		1					
	栄養学総論Ⅱ	講義		1	1		1			1				
	応用栄養学◆	講義	2		2		2			2				
	応用栄養学実習◆	実習		1	1		1			1				
	食事摂取基準・献立論	講義	2		2		2		2					
	臨床栄養学概論◆	講義		2	2		2				2			
臨床栄養学実習	実習		1	1		1				1				
栄養の指導												子ども食物アレルギー実務課程選択必修(◆)		
栄養指導論Ⅰ▲	講義	2		2		2		2						
栄養指導論Ⅱ◆▲	講義		2	2		2			2					
栄養指導実習Ⅰ	実習		1	1		1				1				
栄養指導実習Ⅱ	実習		1	1		1					1			
公衆栄養学	講義	2		2		2			2					

☆の科目から3単位以上選択必修(栄養士・栄養教諭)

▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格;教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(子ども食物アレルギー実務課程)

区分	授業科目	授業形態	履修方法						開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄養教諭履修単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択						
専門科目	給食の運営												こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆) *学外実習(保育所、施設等) 栄養士選択必修 *学外実習(保育所、施設、病院) 栄養教諭履修者のみ必修	
	給食管理◆	講義	2		2		2			2				
	給食実務演習Ⅰ	演習		1	1		1				1			
	給食実務演習Ⅱ	演習		1	1		1					1		
	給食管理実習Ⅰ	実習		1	1		1				1			
	学外実習Ⅰ・Ⅱ指導	演習		1	1		1				1			
	給食管理実習(学外Ⅰ)	実習		2		2					2			
	給食管理実習(学外Ⅱ)	実習		2				2			2			
	学校給食管理実習(学外Ⅰ)	実習		1	1		1				1			
	給食管理実習Ⅱ	実習		1	1		1					1		
	調理学	講義	2		2		2		2					
	調理学実習基礎	実験・実習		1	1		1		1					
	調理学実習Ⅰ	実習		1	1		1			1				
	調理学実習Ⅱ	実習		1	1		1				1			
	実践調理学実習◆	実習		1	1		1					1		
	関連科目													こども食物アレルギー実務課程選択必修(◆) 日本茶アドバイザー資格選択必修
	化学	講義		2		2		2	2					
学校栄養教育論	講義		2		2	2		2						
栄養士実力試験対策演習	演習		1		1		1				1			
くらしとお茶A	講義		2		2		2	2						
くらしとお茶B	講義		2		2		2			2				
教育心理学▲	講義		1		1	1		1						
教職概論	講義		2		2	2		2						
教育相談▲	講義		1		1	1				1				
情報機器演習	演習		2		2	2		2						
最低修得単位数			20	28	※55 ※54	0	64	0	/	/	/	/		
卒業最低修得単位数			必修 20	選択 28	合計			48						
最低修得単位数総計			卒業 62		[栄養士 68 ※専門必修科目 栄養教諭を兼ねる栄養士 54 栄養士のみ 55]									

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格:教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

令和5年度入学生 教育課程

別表 第4 教養学科教育課程表

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数	必修/選択	1前	1後	2前	2後		
										必修
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	日本語表現の基礎	講義		2	2	2				
	倫理学	講義		2	2	2				
	絵本論	講義		2		2				
	心理学	講義		2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
	体育講義	講義		1				1		
	体育実技	実技		1	1					
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	社会学	講義		2	2	2				
	日本国憲法	講義		2	2	2				
	歴史学	講義		2	2	2				
	総合教養 I	講義		2	2					
	総合教養 II	講義		2		2				
	AI社会論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修	
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	海外事情	演習		2		2			海外研修	
	公共人類学	講義		2	2	2				
	英語の文学とメディア	講義		2	2	2				
	アメリカ文学	講義		2	2	2				
	英語演習 I	演習	2			2			英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかの I・II を連続選択履修	
	中国語演習 I	演習				2				
	韓国語演習 I	演習				2				
	日本語演習 I	演習			2					
	英語演習 II	演習	2				2	*日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表		
	中国語演習 II	演習					2			
	韓国語演習 II	演習					2			
	日本語演習 II	演習					2			
	自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)									
	数学基礎	講義		2	2	2				
理科基礎	講義		2	2	2					
分子からみた生物	講義		2	2	2					
SDGs論	演習		2		2					
データサイエンス概論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修		
データサイエンス演習 ◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修		
AIプログラミング ◎	演習		2					2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修	
最低修得単位数			4	10						
卒業最低修得単位数			14							

注: ○から1科目選択必修(デジタル教育プログラム)
◎から1科目選択必修(デジタル教育プログラム・プラス)

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業履修単位数	必修	選択	1前	1後	2前		2後
専 門 科 目	リベラルアーツ				※「リベラルアーツ」の領域内から16単位以上選択					
	a)心 理									
	人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			ビジネス実務士、上級ビジネス実務士、上級ビジネス実務士(サービス実務)、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)必修	
	生涯発達心理学▲	講義			2					
	臨床心理学	講義					2			
	カウンセリング入門▲	講義				2				
	臨床人間学	講義						2		
	社会心理学	講義						2		
	b)人 間 と 社 会									
	哲 学	講義	2			2			2単位以上 選択必修	
	文化人類学	講義				2				
	現代法学	講義				2				
	現代社会学	講義						2		
	生涯学習概論	講義				2				
	社会福祉概論	講義						2		
	メディア文化論	講義						2		
	c)地 域 と 観 光									
	かごしまのダイナミズム	講義	1		1					
	地域とマスメディア	講義	1			1				
	観光文化学	講義		2	2					
	観光フィールドワーク	演習		1		1				
	観光とホスピタリティ	演習		1		1				
	d)国 際 理 解									
	言語・文化の多様性	講義	2				2		上級秘書士・上級ビジネス実務士 上級ビジネス実務士(サービス実務)必修	
	グローバル社会への理解	講義		2			2			
	グローバルコミュニケーション	講義		2			2			
	異文化間コミュニケーション論	講義		2				2		
ビジネス・コミュニケーション										
ビジネス実務総論	講義	2		2				ビジネス実務士・上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士(サービス実務)必修、上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)必修		
オフィス実務	演習	2		2						
ビジネスワーク	演習	2		2				秘書士・上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)必修 上級ビジネス実務士必修 上級ビジネス実務士(サービス実務)必修		
秘書総論	講義	2		2						
ビジネス英語	演習	2		2						
英 語	演習	2					2			
英 会 話	演習	2					2			
ヨーロッパ言語	演習	2					2			
中 国 語	演習	2					2			
韓 国 語	演習	2					2			

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			卒業単位	履修単位	1前	1後	2前	2後		
										必修
専門科目	メディア・クリエイティブ									
	情報科学概論	講義	2		2					
	情報活用	演習	2		2					
	デジタルビジネス概論	講義		2		2			情報処理士・ウェブデザイン実務士必修	
	情報処理論	講義		2		2			情報処理士・ウェブデザイン実務士・司書資格必修	
	プログラミング	演習		2				2	情報処理士・ウェブデザイン実務士必修	
	デジタルデザイン	演習		2	2				ウェブデザイン実務士必修	
	マルチメディア演習	演習		2			2		ウェブデザイン実務士必修	
	図書館概論	講義		2	2				司書資格必修	
	図書館情報資源概論	講義		2			2			
	情報サービス演習Ⅱ	講義		2				2		
	キャリア・アドバンス									
	日本語表現法Ⅰ	講義	2		2					
	日本語表現法Ⅱ	講義	2			2				
	ライフデザイン論Ⅰ	講義	1				1			
	ライフデザイン論Ⅱ	講義	1					1		
	キャリアデザインⅠ	演習	2		2					
	キャリアデザインⅡ	演習	2			2				
	キャリアデザインⅢ	演習	2				2			
	プロジェクト演習	演習	2					2		
プロジェクトデザイン概論	講義		2				2			
総合教養ゼミ	演習		2		2					
最低修得単位数			38	10	/	/	/	/		
卒業最低修得単位数		必修	38(リベラルアーツ選択必修:8を含む)				選択	10	合計	48
最低修得単位数総計		卒業	62							

○鹿児島女子短期大学教学マネジメント会議規程

(趣 旨)

第1条 鹿児島女子短期大学（以下、「本学」という。）に、本学の将来計画及び教育課程の編成等に関する方針の策定、検証、評価等を円滑に実施するため鹿児島女子短期大学教学マネジメント会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は、学長の諮問に応じて次の各号に定める事項を調査・審議し学長に答申するものとする。

- (1) 学科等の基本構想に関すること
- (2) 教育課程編成の方針に関すること
- (3) 学生の修学指導及びキャリア教育の基本方針に関すること
- (4) その他、本学の将来計画及び教育課程、教育活動等の重要事項に関すること

(組 織)

第3条 会議は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学科長
- (4) 図書館長
- (5) 学長補佐
- (6) 運営会議で調整し、学長が委嘱した者
- (7) 事務局長
- (8) 事務局各課長
- (9) その他、学長が必要と認めた者 若干名

2 前項第5号及び第7号の委員の任期は2年とし、再任することができる。

(会 議)

第4条 会議は副学長が招集し、主宰する。

- 2 会議は、委員の過半数の出席により成立する。
- 3 会議には、必要に応じて部会を置くことができる。
- 4 副学長が必要と認めたときは、関係の職員を出席させ意見を聴くことができる。

(会議の事務)

第5条 会議の事務は、教務課において行う。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、学長が教授会の議に付し、その意見を参酌して行う。

附 則

この規則は、平成6年4月4日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年10月5日から施行する。

附 則
この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成16年8月5日から施行する。

附 則
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則
この規則は、令和元年11月7日から施行する。

附 則
この規程は、令和2年4月2日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則
この規程は、令和5年5月11日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

○鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI 教育推進部会に関する申合せ

令和4年6月20日

議長裁定

(趣 旨)

第1条 鹿児島女子短期大学に、鹿児島女子短期大学教学マネジメント会議第4条第3項の規定に基づき、本学の数理・データサイエンス・AI 教育の推進、教育課程の編成等に関する事項を審議するため、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI 教育推進部会(通称 MDASH WG)(以下「部会」という。)を置く。

(組 織)

第2条 部会は、次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 教養学科長
- (3) 児童教育学科から選出された者1名
- (4) 教養学科から選出された者1名
- (5) 教務課長

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(任 務)

第3条 部会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育の推進に関すること
- (2) 数理・データサイエンス・AIに関する教育課程に関すること
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育の自己点検・評価に関すること
- (4) その他、数理・データサイエンス・AI教育に関すること

(運 営)

第4条 部会に部会長を置き、副学長をもって充てる。

2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第5条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第6条 部会の事務は、教務課において処理する。

附 則

この申し合わせは、令和4年6月20日から施行する。

○鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会規程

(趣 旨)

第1条 鹿児島女子短期大学に、鹿児島女子短期大学組織規則第9条の規定に基づき、本学の数理・データサイエンス・AI 教育の推進、教育課程の編成等に関する事項を審議するため、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組 織)

第2条 委員会の委員は、運営会議で調整し、学長が委嘱する。

2 委員の任期は2年とし、再任することができる。

3 委員に異動がある場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(任 務)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 数理・データサイエンス・AI教育の推進に関すること

(2) 数理・データサイエンス・AIに関する教育課程に関すること

(3) 数理・データサイエンス・AI教育の自己点検・評価に関すること

(4) その他、数理・データサイエンス・AI教育に関すること

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、運営会議で調整し、学長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長の任期は2年とし、再任することができる。

5 委員長に事故があるときは、委員長又は学長が指名した委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会の事務を担当する事務職員は、委員会に出席し、意見を述べることができる。

2 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第6条 委員会の事務は、教務課において処理する。

(改 廃)

第7条 この規程の改廃は、学長が教授会の議に付し、その意見を参酌して行う。

附 則

この規程は、令和6年5月2日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

○鹿児島女子短期大学自己点検・自己評価に関する規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、学則第2条に基づき、本学の自己点検・自己評価（以下「点検・評価」という。）について必要な事項を定める。

2 点検・評価は、学校法人志學館学園（以下「学園」という。）が定める自己点検・自己評価に関する規程（以下「点検評価規程」という。）によるものの他、この規程によるものとする。

(基本理念)

第2条 点検・評価は、学校教育法に定める短期大学の目的及び短期大学設置基準を遵守するとともに、学園の建学の精神及び本学の教育理念・教育目標を体して行うものとする。

2 点検・評価の結果は、本学の教育研究環境の充実改善及び教育研究水準の向上に資するものとする。

(組 織)

第3条 学園の点検評価規程第3条第1項の規定に基づき、鹿児島女子短期大学点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(実施事項)

第4条 点検・評価は、次の各号に掲げる事項について行なうものとする。

- (1) 建学の精神
- (2) 教育の効果
- (3) 教育課程
- (4) 学生支援
- (5) 教育資源
- (6) 財的資源
- (7) リーダーシップ
- (8) ガナバンス
- (9) その他委員会が必要と認める事項

(任 務)

第5条 委員会は、点検評価規程第5条に基づき、当該年度に実施する点検・評価項目を決定するとともに、実施計画を策定・実施するものとする。

2 委員会は、前項で実施した結果の分析・評価を行う。

3 委員会は、点検評価規程第6条第1項に基づき、前項の実施結果を教授会の議に付し、その意見を参酌して学園総括点検・評価委員会に報告するものとする。

(結果の活用)

第6条 委員会は、本学で実施した点検・評価の結果を学内に周知し、教職員の協力を得て教育研究環境の充実改善に自ら努めるものとする。

2 委員会は、必要と認めたときは、改善方法を策定し、教授会に報告するものとする。

(事 務)

第7条 自己点検・自己評価の事務は、総務課において行う。

(改 廃)

第8条 この規程の改廃は、学長が教授会の議に付し、その意見を参酌して行う。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年6月3日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

大学等名	鹿児島女子短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

鹿児島女子短期大学

ICTによる地域活性化を担う女子学生のためのデジタル教育プログラム 概要

【目的】

本プログラムでは、地元の産業界の基盤を支える人材を輩出する女子短大として、Society5.0をベースとなるAI、ロボティクス、IoTについての理解を深めるため、基本的なICTからAI、データサイエンスを網羅的に学ぶことができるコースを提供し、地域活性化のDX推進人材の育成を目的とする。

【実施体制（委員会・組織等）】

数学マネジメント会議、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会（旧：数理・データサイエンス・AI教育推進部門）

各学科必修 ICTツール基本操作および情報リテラシー専門科目

【 児 童 教 育 学 科 】 情報機器演習
 【生活科学科 生活福祉専攻】 情報処理
 【生活科学科 食物栄養学専攻】 情報機器演習
 【 教 養 学 科 】 情報活用
 （ワープロ/表計算/プレゼンスキル、情報倫理、情報検索）

+

デジタル教育プログラム

「AI社会論」 / 「データサイエンス概論」

デジタル教育プログラム プラス

「データサイエンス演習」 / 「AIプログラミング」

全学科必修・全学生BYODによる
ICT基礎教育の徹底

現代社会で求められる論理的思考やデータアナリティクス・可視化について「体系的理論」、「実務的体験」教育の実施

修得するスキル・知識

- ・データサイエンスと地域社会の関わり
- ・データサイエンスの分析手法
- ・データの可視化や分析の技術
- ・データを活用したプレゼンテーション能力

地域活性化のDX推進人材

